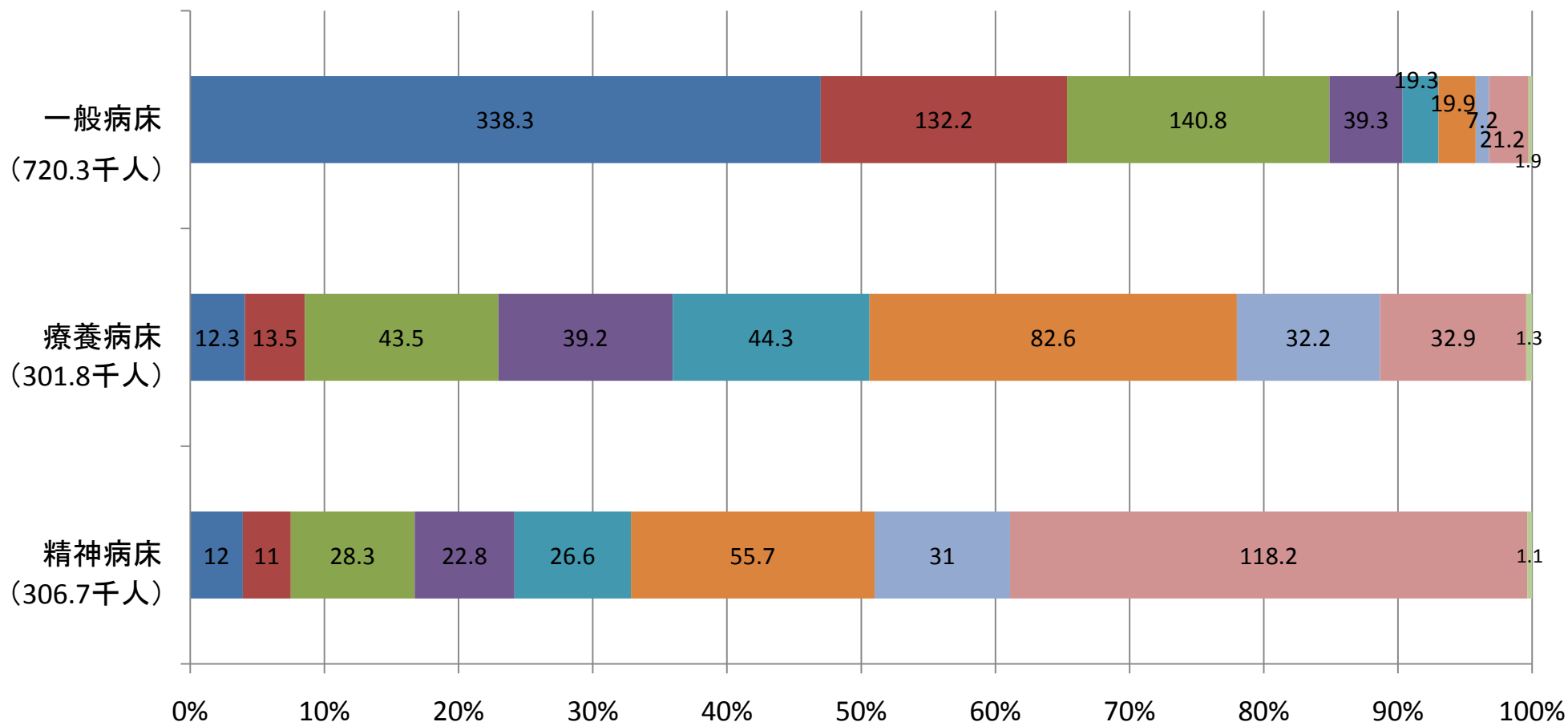


入院期間別入院患者数(病院)

○ 一般病床にあっては、入院してから14日以内の患者が50%弱。

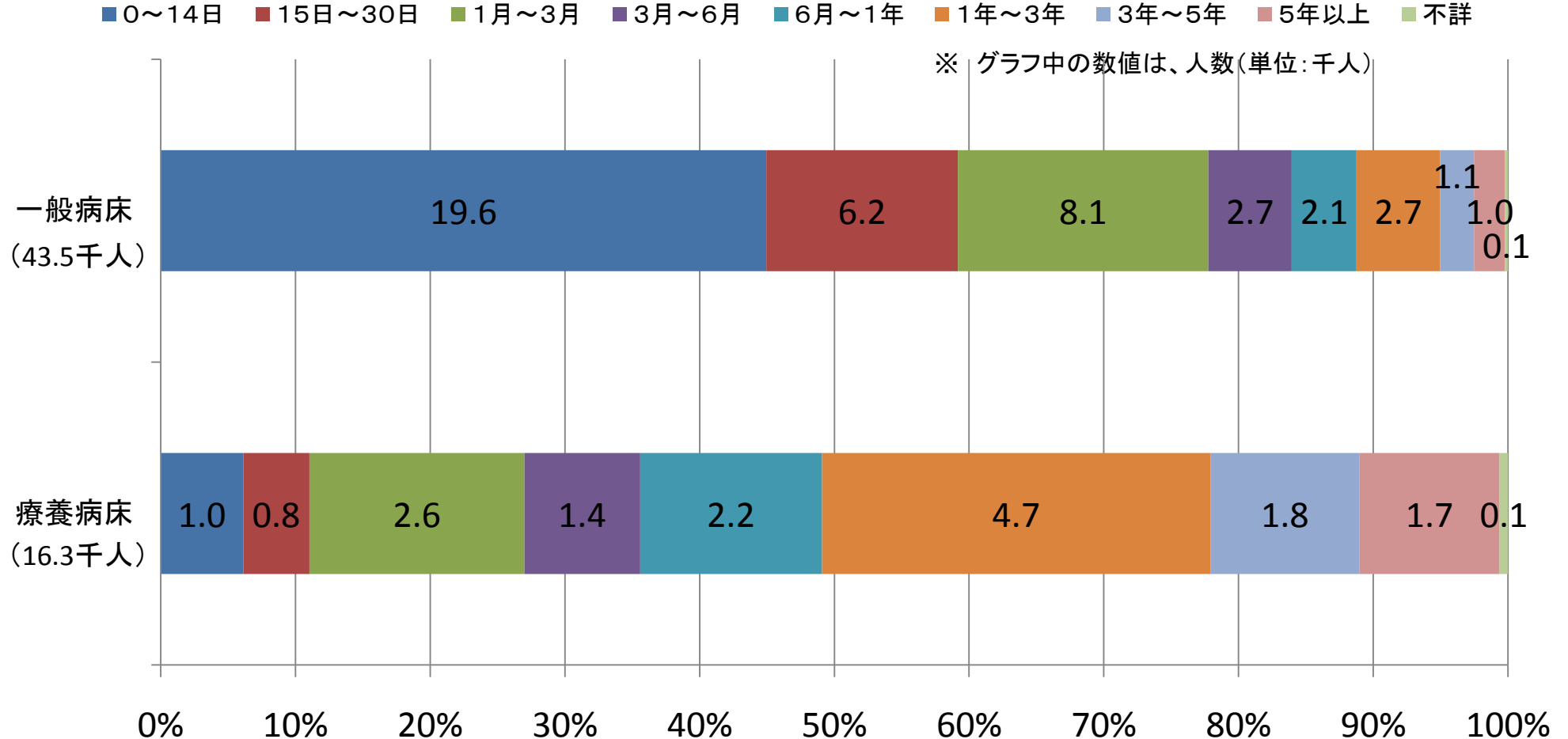
■ 0~14日 ■ 15~30日 ■ 1月~3月 ■ 3月~6月 ■ 6月~1年 ■ 1年~3年 ■ 3年~5年 ■ 5年以上 ■ 不詳

※ グラフ中の数値は、人数(単位:千人)



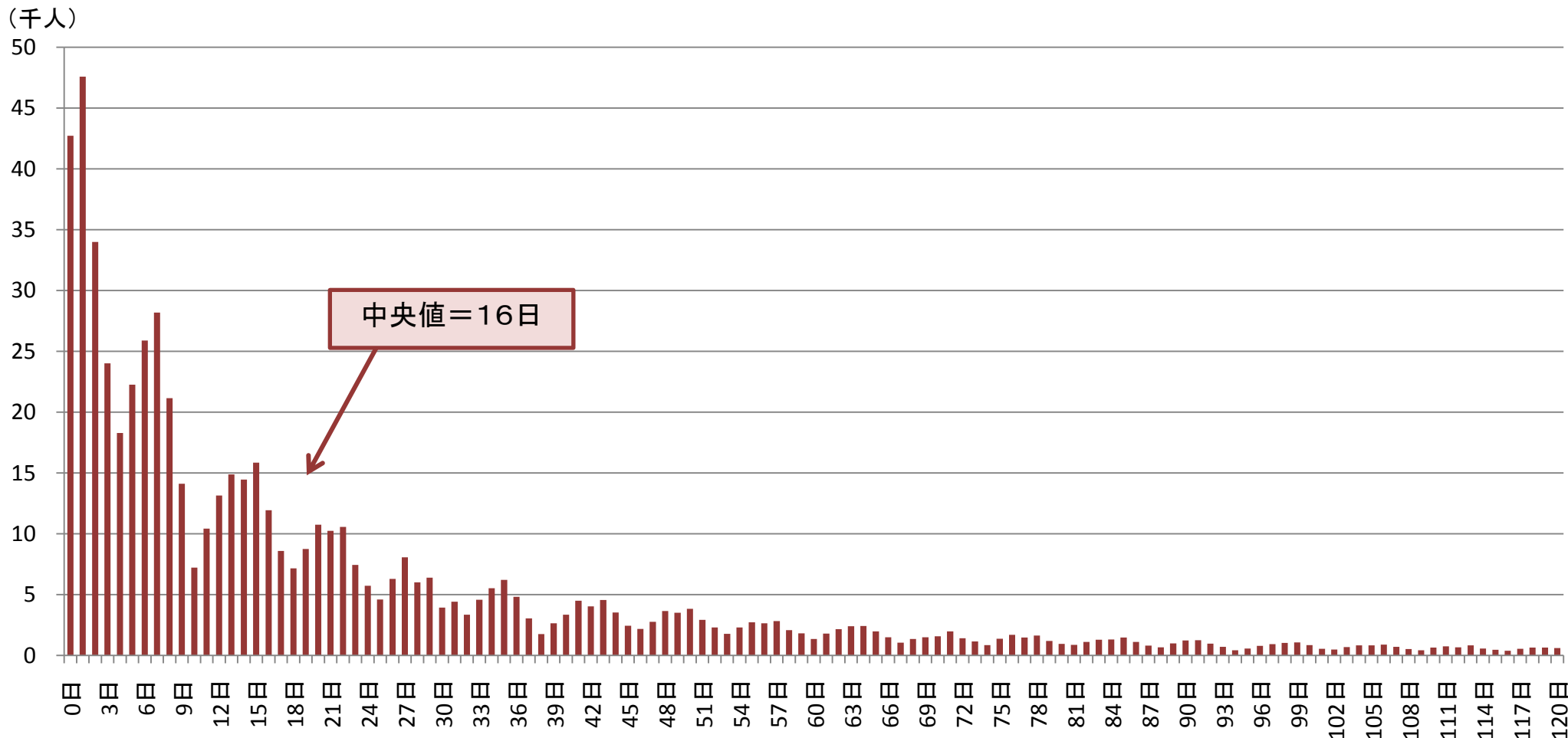
入院期間別入院患者数(診療所)

○ 一般病床にあっては、入院してから14日以内の患者が約45%。



日数ごとにみた推計入院患者数(病院・一般病床)の推移(0~120日)

- 病院・一般病床の推計入院患者(720.3千人)について、調査日(火・水・木曜日)において入院から何日目になっているかを見てみると、以下のとおり。
- 休日の影響による入院患者数の増減はみられるが、1日当たり一定程度の新时期入院があるとすれば、ある日に入院した患者は1週間を超える前後までに半数ほどが退院し、全入院患者の中央値である16日までには3分の2ほどが退院していると推測することができる。



注)120日以上は略

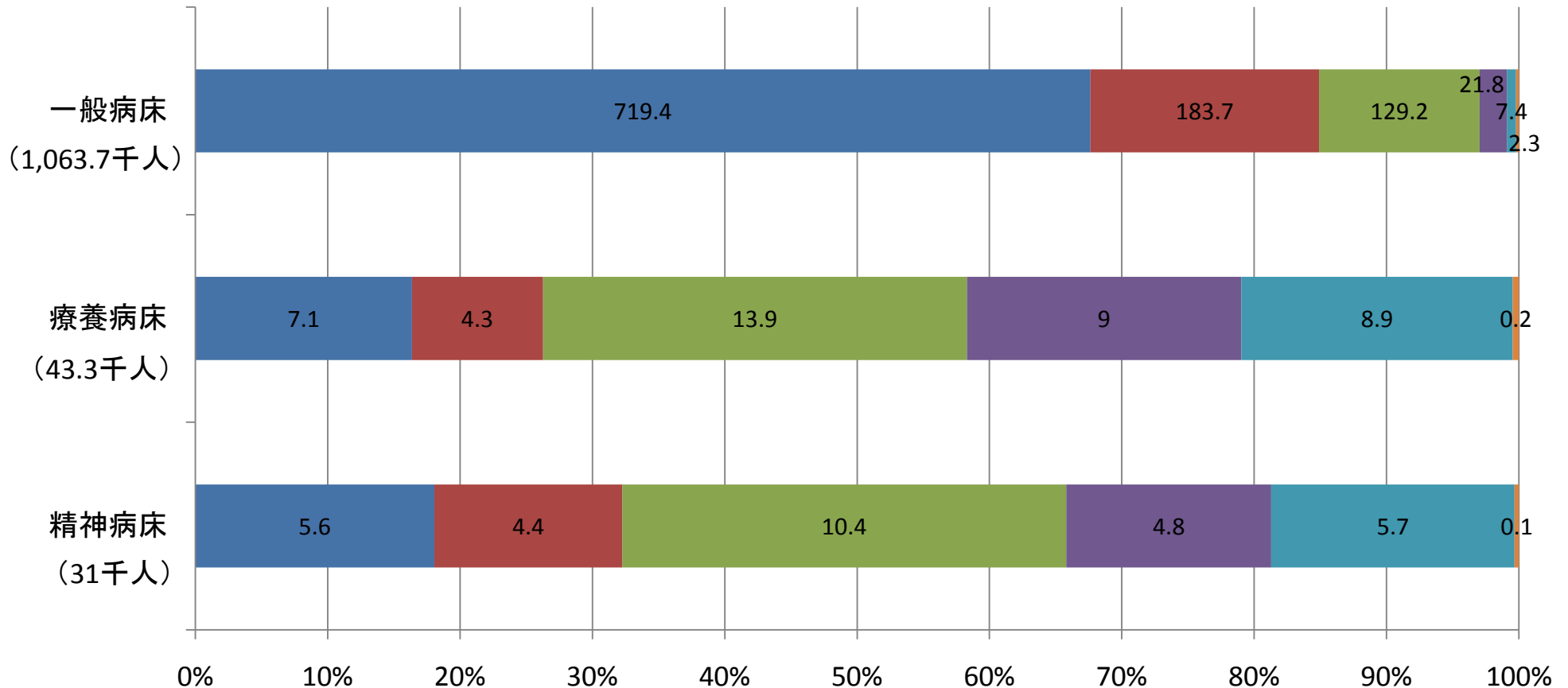
出典)厚生労働省 平成20年「患者調査」より作成

退院患者の在院期間別内訳(病院)

- 患者調査による1か月間(平成20年9月)の推計退院患者数は、一般病床が1063.7千人、療養病床が43.3千人、精神病床が31千人。
- 退院患者平均在院期間は、一般病床が21.1日、療養病床が213日、精神病床が347.7日。
- 一般病床にあっては、入院してから14日以内の患者が70%弱。

■ 0~14日 ■ 15~30日 ■ 1~3月 ■ 3~6月 ■ 6月以上 ■ 不詳

※ グラフ中の数値は、人数(単位:千人)



日数ごとにみた推計退院患者数(病院・一般病床)の推移(0~120日)

○ 病院・一般病床の月間推計退院患者(平成20年9月。106.4万人)について、退院までの在院日数ごとの退院患者数(特別集計)をみると、以下のとおり。

○ 121日以上も含めた平均値は21.1日、同中央値は8日。

(千人)

120

100

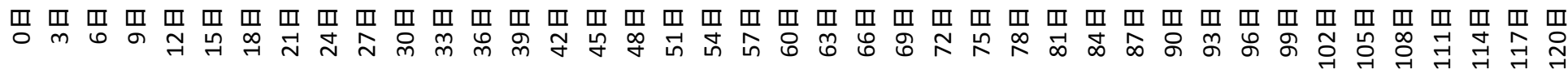
80

60

40

20

0



注)120日以上は略

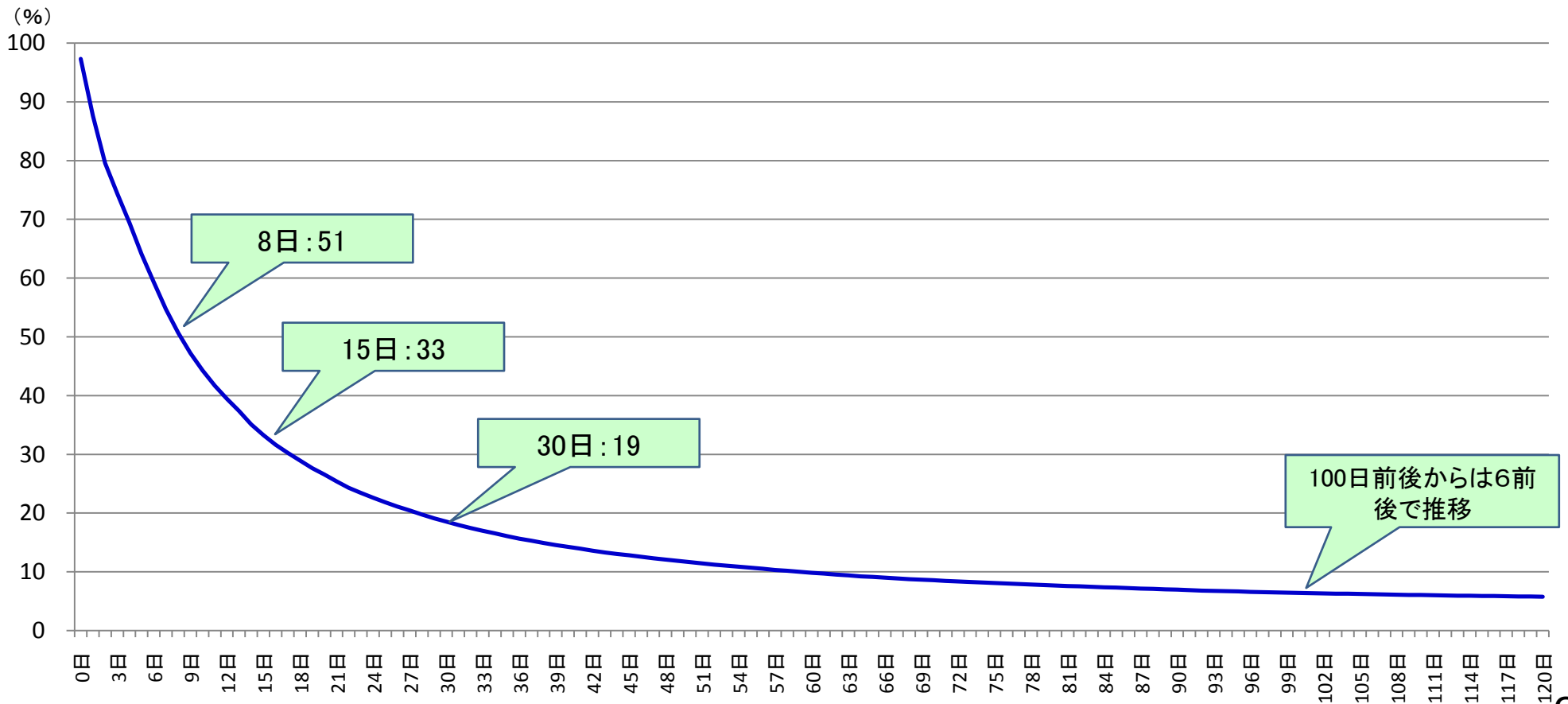
出典)厚生労働省 平成20年「患者調査」より作成

退院曲線イメージ(日数ごと退院患者数からの推測)

- 病院報告(平成20年)によると、病院の一般病床の1日平均新入院患者数は38,999人。
- 患者調査による月間推計退院患者(平成20年9月)について、在院日数ごとの退院患者数(特別集計)を30で除して得た数を X_k とする。今回の特別集計では、 $0 \leq k \leq 120$ (k は整数)。
- これらの数字により、ある日に入院した患者のうち、 n 日後に入院している患者数 Y は、以下の式で表される。

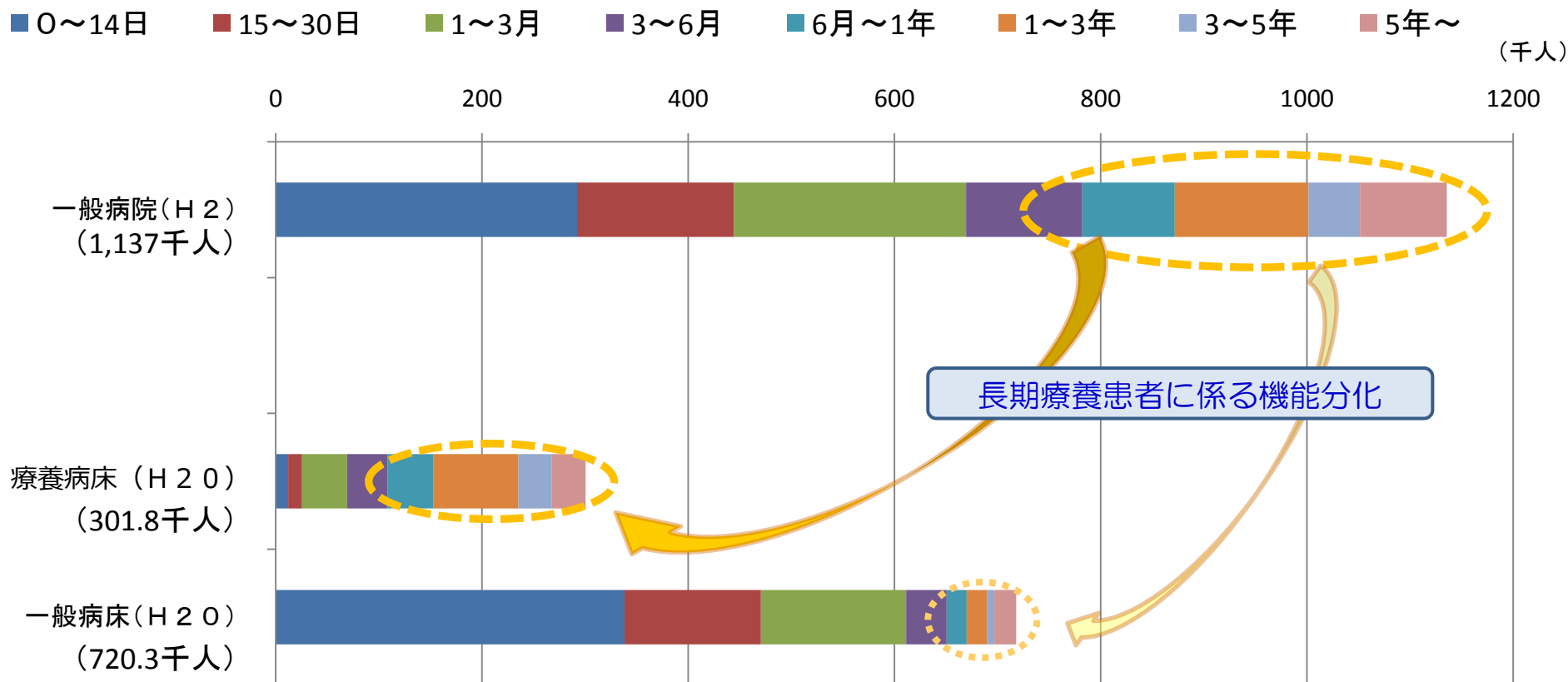
$$Y = 38,999 - \sum_{k=0}^n X_k$$

- 1日平均入院患者数(38,999人)を100として、上式で得られる Y を百分率に換算してグラフ化すると以下の通り。



入院期間別入院患者数と一般病床・療養病床（病院）

- 平成2年「患者調査」(療養病床(療養型病床群)の制度化以前)によると、一般病院(精神病院(当時)、結核療養所以外の病院)の入院患者は1,137千人、うち31%が6月以上入院。
- 平成20年患者調査によると、一般病床と療養病床の入院患者合計は1,022千人、うち25%が6月以上入院。一般病床のみでみると、6月以上入院は9%強。
- 介護基盤の整備、平成2年のデータには総合病院等の精神病床を含むこと、患者像は期間のみで語りきれないこと等の留意点はあるが、全体としては、病床類型の機能分化によって、現在では長期療養を要する患者は主として療養病床で対応していると言える。



特殊診療設備の状況

特殊診療設備は、数床単位（ユニット単位）で運営されている。